

「河川技術・流域管理分野 地域課題」（令和2年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
中小河川の洪水流出に影響を及ぼす将来の洪水規模と頻度の増加に適応した洪水処理施設の操作と河川情報の創生	大阪工業大学 山口行一	B
<p><研究概要></p> <p>本研究は、本川・支川の影響について、今後の温暖化による気候変動に伴う河川情報のあり方や内水排水機場の操作方法等について検討を行った。新宮川水系市田川を対象に、当時の情報共有、浸水の実態を資料解析、アンケート等から現状の課題を把握し、過去の台風被害の再現、温暖化予測値を利用した平成29年10月台風21号の位置づけと今後の被害予想を頻度分析から今後の操作方法やソフト対策の方向性を明らかにした。</p>		
<p><事後評価指摘事項></p> <p>内水氾濫リスクの評価は、流域治水の展開にとって有用な成果である。しかしながら、内水氾濫のタイプ別に必要となる避難情報の整理が必要であり、今後具体的な提案をさらに進められることを期待する。</p>		

※ 評価基準

A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。

B：一定の研究成果があった。

C：研究成果があったとは言い難い。